

かんきつ新品種「肥の豊」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部
担当者：満田 満

研究のねらい

熊本県のかんきつ経営の柱である「不知火」(デコポン)は、樹勢が低下しやすく収量が少ないこと及び成熟期が遅く高酸果実の割合が多いことが問題となっている。

このため、珠心胚実生により樹勢が強栽培しやすく、早熟性で食味の良い品種を育成し、中晩柑の品質向上を図る。

研究の成果

< 来歴 >

平成元年に「不知火」に「マーコット」を交配して珠心胚実生 149 本を育成し、平成 3年から平成 10年にかけて高接ぎ誘引下垂法による果実品質および葉・枝の形態調査から優良個体の「肥の豊」を選抜した。

- 1 「不知火」に比べ、葉が大きく新梢はかなり強く伸び、「不知火」より大きい刺があり樹勢が強く、樹冠の拡大が早い。
- 2 果実は不知火と同程度の 270 ~ 300 g の重さで、果こう部にカラーを有するものがやや多く、着色は不知火と同時期かやや早く、果面はやや滑らかである。
- 3 果汁成分は、12月下旬収穫 1月中旬分析で糖度 14~ 12.5、酸 1.2~ 1.4%となり、クエン酸含量が「不知火」比べると 0.2%程度少ない。

普及上の留意点

- 1 普及対象地域は、不知火の栽培地域とし、樹勢低下園の改植用品種として適する。
- 2 原木については、ウイルス検定の結果CTV、CTLV、SDVについて無毒であり、繁殖過程においては、高接ぎ樹からの穂木採取によるウイルス保毒に注意する。
- 3 栽培管理方法については、不知火の栽培方法に準じて行い、若木のうちは「刺」があるので除去を行う

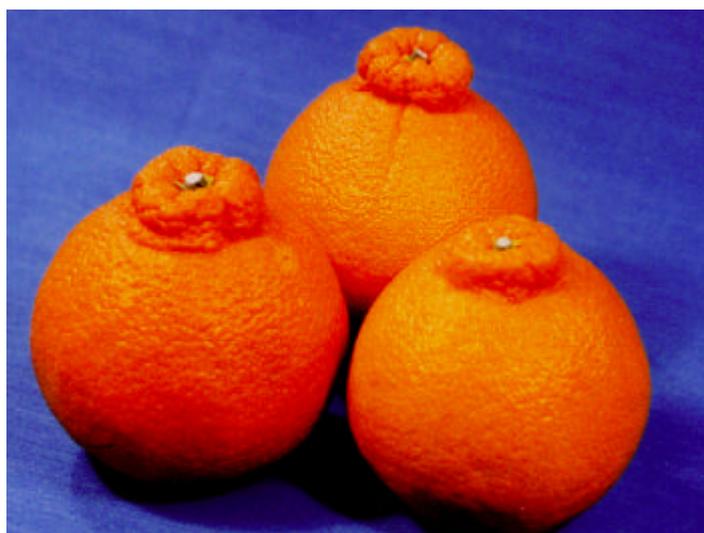


写真1 「肥の豊」の果実



写真2 「肥の豊」の着果状況

表1 樹の生育と枝葉形態

	主幹周	樹容積	春枝	夏枝	葉身長	葉幅	葉柄長	葉面積
肥の豊	11.8 ^{cm}	1.22 ^{m³}	15.1 ^{cm}	34.5 ^{cm}	75.3 ^{mm}	33.5 ^{mm}	18.5 ^{mm}	17.2 ^{mm}
不知火	11.1	0.91	12.8	21.1	68.5	31.1	15.0	13.9

表2 果実形態

年次	平均果重g		着色程度		果実横径cm		果実縦径cm		カラ高さcm		果面粗滑	
	96年	97	96	97	96	97	96	97	96	97	96	97
肥の豊	281	283	7.6	9.9	8.3	8.3	8.3	8.2	4.3	4.2	3.3	3.7
不知火	311	291	7.7	9.8	8.7	8.6	8.0	8.2	3.0	2.8	3.4	3.6

果面粗滑は、滑らか5～粗い1の5段階評価の平均値

表3 果汁成分

	H7		H8		H9		H10	
	糖度	酸%	糖度	酸	糖度	酸	糖度	酸
肥の豊	14.9	1.28	13.4	1.20	14.5	0.96	11.5	1.36
不知火	15.0	1.49	13.8	1.43	14.6	1.16	12.5	1.44

注) H10の不知火の調査果実は、試験ほ場外の果実である。